

2020年度 教育支援プログラム(C) 成果報告書

取組名称	模擬入管
テーマ 該当番号に○	I. 国際社会への貢献 II. 産業界との連携 III. 地域社会との連携 IV. 小中高との連携
取組責任者	22AQ017 喜安花央里（人間科学部心理学科 3年）
取組担当者	22AM082 房村佑希与（法学部国際関係法学科 3年） 23AD059 矢嶋優奈（文学部外国語学科仏語専攻 2年） 24AL168 出利葉由麻（法学部法律学科 1年） 24AM033 萩原千乃（法学部国際関係法学科 1年） 24AM049 シトゥメアン・ハルン・サムエル（法学部国際関係法学科 1年） 24AM084 久光耀子（法学部国際関係法学科 1年） 24AR064 竹光康紘（国際文化学部国際文化学科 1年）
取組助言者	根岸陽太（法学部国際関係法学科准教授）

1. 取組の概要（200～300字程度）

このプログラムでは 8 人の学生が入国管理・難民問題について学習した。前期は週一回オンライン上で集まって勉強した。後期はオンラインと対面を組み合わせ、オンラインの講演会や体験シミュレーションに向けて準備を進めた。

本取組みは「人の痛みを知り」、「人の心に寄り添う」ことを目的としている。日本では入国管理センターでの実情が知られておらず、収容者への偏見もある。「人の心に寄り添う」ことは簡単ではないが、知ることから始まると考え、講演会や体験シミュレーションを実施した。知る機会が増えることで、問題への関心を高め、正しい知識を伝えることができる。その結果、「人の心に寄り添う」という目標が達成されると考えた。

2. 活動内容

経費の有無に関わらず、本取組の活動内容を時系列で記入してください。

【前期】

週に 1 度オンライン上で集まり、勉強会を開催した。

- 5月14日 顔合わせ
- 5月21日 自分たちで調べたことの共有
- 6月4日 竹内正宣先生との会合
- 6月11日 入国管理問題内的問題の発表
- 6月16日 入国管理問題外的問題の発表
- 7月2日 前期の振り返り
- 7月23日 懇親会
- 8月5日 懇親会
- 8月19日、21日 意見交換会

【後期】

前期と同じく週に 1 度オンラインや対面で集まり、教育支援プログラム申請書作成、12 月のイベントに向けた準備を行った。

- ～9月18日 教育支援プログラム申請書作成
- 9月18日 後期初ミーティング

9月25日 稲森先生との会合
 12月5日 稲森先生、竹内先生の講演
 12月13日 体験シミュレーション、小宮先生の講演
 ~2月28日随時 報告書作成

3. 得られた成果

<申請当初の目的・計画の達成度>

申請書の「3. 達成目標」と照らして、どの程度の達成度であったかを記入してください。

目的1. 入管問題について自分たちの考えを持ち、意見交換できるレベルに達する

概ね達成できたと考える。

前期から、自分たちの視点、内的問題と外的問題、専門家の方のお話など様々な視点から問題を捉え、発表を通して共有してきた。そのことでメンバーの問題に対する視野が広がった。

後期では入国管理センター訪問が新型コロナウイルスにより中止になってしまったが、そこで学びを止めずに自分たちができることを考え、意見を交換しながら、地に足をつけた活動ができた。

目的2. 知識を外部に発信することで、外部の人にも意見を持ち、考えてもらう

達成できたと考える。

体験シミュレーションは、一方的な情報提供ではなく参加者同士の意見、感想の交換も求めた。事後アンケートでも「参加者と意見交換をしたり話し合いをする状況があったことがいいと思った」「最後の感想を言うところで、みんなの意見や思ったことが聞けたのが良かった」という声があった。

講演会でのアンケートでも「日本の対応を批判するだけではなく、代替案を自分なりに考えてみようと思う」「様々な視点から考えることが出来た」という声があった。

<優れた成果があがった点>

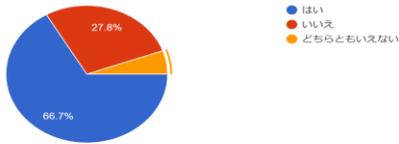
活動を通して特に成果があがったと感じた点について記入してください。

講演会後のアンケートで「講演会にまた参加してみたい」「もっと入国管理問題について知りたい」という項目に対して100%「はい」と回答してもらったことだ。また、シミュレーションも参加者は想像より多くのことを考えてくださった。

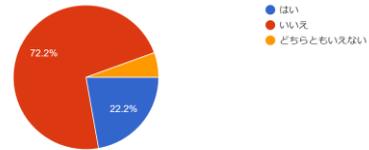
私たちはこの活動の目的で「知ることでこの問題に関心を持ち、正しい知識をもつことが「心に寄り添う」の第一歩になる」と掲げていたが、想像以上に良い反響があった。客観的な成果が見えたり、直接入国管理問題を解決したりするものではないが、このように参加者全員が強く関心を持ってくれたことは優れた成果だと考えている。

【講演会事後アンケート】

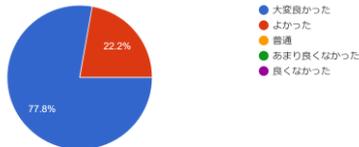
日本における難民問題について知っていましたか。
18件の回答



おける入管問題について知っていましたか。
18件の回答



講演はいかがでしたか。
18件の回答



今回の講演会にまた参加してみたいですか。
18件の回答



今回の講演会を通して日本における入管・難民問題をもっと知りたいと思いましたが。
18件の回答



【シミュレーション感想】

- ・全く難民問題のことを知らず、今回のシミュレーションを通して、なかなか安心が出来ない中、漸く受け入れてもらえるかと思っても、理解出来ない言語で書かれた申請書を見た時の絶望感から、実際の難民の方々の苦労は耐え難いものだろうと考えることが出来た。
- ・今回のシミュレーションで実際に体験してみることで、難民の人達が命懸けで自国を離れている事、日本へ難民申請しても全然認めて貰えないこと、また収容所で生活する人々のことを知りました。頭では分かっていたこともその気持ちになってみると全てが衝撃的でした。今の自分の環境に感謝すると同時に、このような難民問題を家族や友人に話して知ってもらうことが一つのステップだと思います。これから実行したいと思います！
- ・他の参加者と交流することが出来たのが楽しくて、最後の感想を言うところで、みんなの意見や思ったことが聞けたのが良かった。
- ・自分に難民等の知識がなかった(間違っていた)ということに気づけたうえに、本当の難民の様子等を身をもって体験できたので普通に話を聞くよりも良く理解出来たと思った。今は自分たちで簡単に情報を発信できる状況なので、もっとこういう事実を知って知識をつけてから自分でみんなに情報を発信出来れば良いなと思った。
- ・難民の方があまり良くない環境にいるということは文面では分かっていたけど、実際体験したりお話を聞いたりしてほんとに深刻だと言うことを改めて知りました。このことは多くの人知っておくべきだし、国全体で解決策を考えて行くべきだと思います。ほんとにいい体験でした。
- ・難民問題についてまったく知らない状態からシミュレーションに参加させて頂き、難民として生きることの不安や困難・苦しみをリアルに感じる事ができ胸が痛くなりました。面会シミュレーションでも、お話を聞くなか思ったのは、日本は平和で設備も整ってて良い国だと私自身も思っていたのに、そのようなイメージをもった人が難民として来ても「良い国」ではないのだな、ということです。日本は難民問題への意識がほとんどなく毎日暮らしていると思いますし、だから私も今までこのような問題があるとは知りませんでした。もっと自国の問題点や改善点について自国民として責任をもって学び、行動していかななくてはいけないと感じました。このような気づきを得られる機会を設けてくださりありがとうございました。

